

会 報

No.36 (1990年6月)

目 次

- ◆第13回 (1990年) 日本分子生物学会年会のお知らせ(その2) … 1
- ◆学会からのお知らせ …………… 9
- ◆日本分子生物学会入会申込みの手順 ……………10
- ◆学術賞及び研究助成金の本学会推薦について ……………10
- ◆山田科学振興財団より ……………13
- ◆日産科学振興財団より ……………16
- ◆千里ライフサイエンス振興財団設立記念講演会 ……………17
- ◆日本学術会議より ……………19

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆第13回（1990年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第13回年会を1990年11月26日（月）-29日（木）の4日間、京都市宝ヶ池の国立京都国際会館で開催します。詳細については後日（10月中旬の予定）お送りするプログラムでお知らせしますが、大会スケジュールのあらまはは下記の通りです。

一般発表

すでに会報No.35（1990年2月）でお知らせしましたように、一般発表は、口演発表を廃止し、すべてポスター発表となりますのでご注意ください。後記の「発表申込み」の要項にしたがいお申込み下さい。ポスター発表は4日間を通じて約1200題を予定しています。ポスターは一日中（9時より19時まで、ただし、最終日は16時30分までの予定）掲示していただき、午前中の指定した時間帯（1時間30分の予定）には代表発表者が口頭説明して下さい。

シンポジウム

シンポジウムは第3日目を除く毎日午後5-6会場で開催されます。後記のシンポジウムの一覧の中よりポスター発表に申込まれた演題に最も関連の深いものを一つ選び、「発表の申込み」の要項にしたがいお申込み下さい。なお、シンポジウムにおける口演発表は時間の制約から3日間を通じて約150-200題を予定しています。発表演題の採択は、原則として申込みのあった演題の中からシンポジウムの一覧の

日程表

	11月26日（月）		11月27日（火）		11月28日（水）		11月29日（木）	
9:00	ポスター説明	ポ ス タ ー 発 表	ポスター説明	ポ ス タ ー 発 表	ポスター説明	ポ ス タ ー 発 表	ポスター説明	ポ ス タ ー 発 表
12:00	ポスター説明		ポスター説明		ポスター説明		ポスター説明	
13:00	シンポジウム	シンポジウム	シンポジウム	総会	シンポジウム			
18:00	シンポジウム	シンポジウム	シンポジウム	特別講演				
19:00	カクテルアワー	カクテルアワー	カクテルアワー	懇親会				

中に記載のオーガナイザーが行います。シンポジウムでの口演発表者は、原則としてポスター発表の代表発表者とします。

特別講演

第3日目午後に総会に引き続き、F. Stahl博士（オレゴン州立大学）とJ. Sulston博士（M. R. C.）の特別講演を予定しています。

なお、準備委員会の構成は下記の通りです。

浅野 朗	磯野 克巳	伊藤 建夫	大嶋 泰治	岡山 博人
小川 智子	小川 英行（委員長）		京極 好正	谷口 維紹
中田 篤男	長田 重一	二井 将光	松代 愛三	松原 謙一
御子柴克彦	吉川 寛			

発表の申込み

1. ポスター発表の代表発表者およびシンポジウムの口演発表者は、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題 とします。なお、他のポスター発表およびシンポジウム口演発表の連名者となることはさしつかえありません。
2. ポスター発表およびシンポジウム口演発表の申込みは、とじ込みの用紙（発表申込書、プログラム編集用・人名索引編集用カード、発表要旨）に必要事項を記入・印字し、要旨の電子コピー3部を添え、書留便で年会係までお送り下さい。なお、プログラム編成などについて希望があれば、申込書の通信欄にお書き下さい。ただし、希望に添えないこともあります。また、別の手紙を添付または同封しないで下さい。

締切日 1990年7月10日（火）必着、（ただし、シンポジウム口演発表に申込みず、ポスター発表のみに申込み場合は、1990年8月15日（水）必着とします）

送り先

〒530 大阪市北区松ヶ枝町6-3 第10田淵ビル2階 (財)日本学会事務センター大阪事務所内 第13回 日本分子生物学会年会係 電話 (06) 356-6041
--

(送り先が昨年度と異なりますので、ご注意ください。)

3. ポスター発表の代表発表者およびシンポジウム口演発表者の本年度会費納入を確認するために、申込み書の指定の欄に会費払込みの際に、郵便局が発行する領

収書のコピーを貼付して下さい。

なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センターより会費の請求書が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には、発表申込みを受理できませんのでご注意下さい。

4. ポスター発表演題受取書は、申込み用紙到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認の上、返送します。ポスター発表の日時についての通知は、会員の方々に送付されるプログラムを以て代えます。ポスター発表演題は申込みの形式および内容に関して不備、あるいは不相当と考えられる場合には、不採用のこともありますのでご承知下さい。
5. ポスター掲示時間は、終日（9時より19時まで、ただし最終日は16時30分までの予定）ですが、発表者は指定の時間帯（9時－10時30分もしくは10時30分－12時のいずれかを指定の予定）にはポスターの前に立ち、質問・討論に備えて下さい。ポスター掲示のスペースは高さ150cm幅150cm（両側に若干の余裕あり）を予定しています。
6. シンポジウムの口演発表は、あらかじめ決められたオーガナイザーが原則として申込みのあった演題の中より選んでプログラム編成します。シンポジウムは第3日を除く毎日午後開催されますが、13時－15時30分および15時30分－17時にそれぞれ5－6セッションずつを予定しています。また、演題数は1セッション当り5－7題を予定しています。シンポジウム口演発表の演題の採否は、オーガナイザーにお任せください。シンポジウム口演発表の演題の採否は、演題採否通知用のハガキにより連絡します。また、採用された演者には、おってシンポジウムのプログラムをお知らせします。

参加申込みおよび参加費

1. 年会参加費は、前納の場合一般5,000円、学生4,000円です。当日受付の場合は、それぞれ6,000円、5,000円となりますのでご注意下さい。参加費には発表要旨集1部の代金が含まれています。なお、要旨集のみ希望の方には、会員1,500円（但し、会員1人につき1部のみ）、非会員3,000円でお頒けします。
2. 本年度は、懇親会を11月28日（水）18時より京都国際会館内「サクラ」において予定しています。懇親会費は、5,000円です。奮ってご参加下さい。
3. 年会参加費、要旨集代金、懇親会費の払込みには、同封の振替用紙をご利用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には、必ず通信欄に、第13回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

口座番号 大阪2-22357

加入者名 (財)日本学会事務センター大阪事務所

整理の都合上、申込み者1人につき1枚の振替用紙をご使用下さい。

4. 11月1日までに参加費を払込まれた方には、年会前に発表要旨集を郵送します。11月2日以降に払込まれた場合には、年会会場にて要旨集をお渡しすることになりますのでご注意ください。
5. 参加費払込みの領収書は、原則としてお送りしませんのでご了承下さい。念のため、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。
6. 当日申し込まれる方は、会場受付で参加費をお支払い下さい。
7. 年会期間中の宿泊・JR・航空券の手配については、日本交通公社 (JTB) 京都支店 (団体旅行担当) よりご案内します。
8. 第13回年会に関する問い合わせ先

本年の年会運営は下記で担当します。この年会についてのご意見は下記宛にお願ひします。

(財)日本学会事務センター大阪事務所内

第13回 日本分子生物学会年会係

Tel: (06) 356-6041 Fax: (06) 356-6190

発表申込用紙などの記入上の注意

1. 用紙は切り放さずに郵送して下さい。
2. *印の項には記入しないで下さい。
3. 要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサまたはタイプライターで直接印書するか、または印書したものをていねいに糊付けして下さい。代表発表者の前には、○印をつけて下さい。所属は略称を用いて下さい。
なお、鮮明な電子コピーを3部添付して下さい。
4. プログラム編集用カードにしたがって、プログラムを編集・印刷します。「演題」「氏名・所属」を要旨に記載のものとまったく同じに記入して下さい。なお、同一研究グループで複数の関連演題を発表する場合に、ポスターの掲示の順序などに希望があればその旨を申込書の通信欄に記入して下さい。
5. 人名索引編集用カードには演者および連名の方すべてについて1枠に1名ずつ

記入して下さい。

6. 発表申込書には「演題」「氏名・所属」とともに、連絡者1名の氏名・住所・電話番号を記入して下さい。
7. ポスター発表の内容について、分類表から希望するものを選び、番号およびアルファベットで記入して下さい(例：I－b－(1)、III－aなど)。昨年度に引き続き研究内容中心の分類を採用しています。また、「遺伝子の分子構造」については、構造そのものに興味がある場合のみ「遺伝子(塩基配列の多様性)」の項を選ぶこととし、その他の場合にはできる限り、その研究内容に沿った項目を選ぶようにして下さい。
8. シンポジウム口演発表を希望する方は、シンポジウム一覧の中からシンポジウム名、キーワード及びオーガナイザー名を参考として、ポスター発表に申込まれた演題に最も関連の深いもの一つを選びその名称を記入して下さい。
9. 代表発表者およびシンポジウム口演発表者の本年度会費払込領収書(郵便局の発行するもの)のコピーを所定の欄に貼付して下さい。入会手続き中の方や領収書を紛失された方は同欄にその旨をお書き下さい。
10. 受取書のハガキには「演題」、シンポジウム発表演題の採否の通知書のハガキには「演題」と「発表希望シンポジウム名」を記入して下さい。また、裏面には宛名を記入し、41円の切手を貼って下さい。切手が貼られていない場合には返送しません。

ポスター発表分類表

- (I) 分子構造
 - (a) 遺伝子 (塩基配列の多様性)
 - (b) ゲノム解析
 - (c) 蛋白質 (構造・機能)
 - (d) 核酸 (物理・化学)
 - (e) 分子集合
 - (f) 分子進化
 - (g) その他
 - (II) 分子機能
 - (a) 複製 (DNA・RNA・染色体)
 - (b) 組換え・修復・変異
 - (c) 転写
 - (d) RNAのプロセッシング
 - (e) 翻訳
 - (f) 蛋白質のプロセッシングと局在化
 - (g) その他
 - (III) 細胞の構造
 - (a) 核および核内構造 (染色体・クロマチン・核小体)
 - (b) 生体膜・エネルギー
 - (c) 細胞骨格・運動
 - (d) 細胞質オルガネラ (ミトコンドリア・クロロプラストなど)
 - (e) その他
 - (IV) 細胞の機能
 - (a) 情報伝達
 - (1) 成長・分化因子・ホルモン (受容体)
 - (2) その他の生理活性物質
 - (3) 細胞内情報伝達
 - (4) その他
 - (b) 細胞増殖
 - (1) 細胞周期・分裂
 - (2) 癌化 (ウイルスを含む)
 - (3) 癌遺伝子の機能
 - (4) 増殖関連遺伝子の機能
 - (5) その他
 - (V) 生命現象
 - (a) 発生・分化
 - (b) 免疫
 - (c) 神経
 - (d) 病態解析・診断 (ウイルスを含む)・老化
 - (e) その他
 - (VI) 分子生物学の方法論・技術
 - (a) 遺伝子工学
 - (b) 蛋白質工学
 - (c) 細胞工学
 - (d) 発生工学
 - (e) その他
- (1) 真核生物
(2) 原核生物
(3) ウイルス・ファージ
(4) 染色体外遺伝子
- (1) 真核生物
(2) 原核生物
(3) ウイルス・ファージ
(4) 染色体外遺伝子

シンポジウム

シンポジウム 番号	シンポジウム名	オーガナイザー	アドバイザー
キーワード			
1)	ゲノム解析—その展望	磯野克巳、大木 操	
大腸菌ゲノム／ Human ゲノム／ 各種生物のゲノム／ 細胞内オルガネラのゲノム／ ゲノム解析の新技术／ 染色体ライブラリー／ ゲノム内反復配列／ ゲノムデータベース			
2)	染色体の構造	岡崎恒子、丹羽修身	
ヘテロクロマチン／ 染色体蛋白質／ 染色体の機能ドメイン／ 核骨格／ 染色体の分配			
3)	蛋白質の構造と機能	森川耿右、菊地正和	京極好正
蛋白質のドメイン構造／ 蛋白質工学／ 酵素機能の生化学的解析／ 蛋白質の物理化学／ 蛋白質重合／ 蛋白質の生理活性部位／ 蛋白質の機能解析／ 蛋白質の立体構造			
4)	蛋白質—核酸系の構造と機能	箱島敏雄、白川昌宏	京極好正
蛋白質と核酸の相互作用／ 核酸結合蛋白質の構造／ DNA・RNA結合モチーフ／ 核酸蛋白質分子集合／ 核酸の構造			
5)	複製 I、II	小笠原直毅、伊藤健夫、 花岡文雄、升方久夫	吉川 寛
染色体／ DNA／ RNA／ レプリコン／ 複製制御／ 複製関連酵素／ 複製開始調節／ 複製の終結／ 複製開始点／ 細胞周期／ DNA修復／			
6)	組換え I、II	城石俊彦、川市正史、 堀井俊宏	
組換え関連遺伝子／ 組換え機構／ 組換え酵素／ 修復／変異／ トランスポゾン／ ミュテーター／ 組換えのホットスポット／ 減数分裂／ 抗原受容体遺伝子／ 分化に伴う染色体の再編成／ ジーンターゲッティング			
7)	真核細胞における転写制御 I —植物・下等真核生物における遺伝情報の発現と制御—	岩淵雅樹、原島 俊	谷口維紹
植物／ 下等真核生物（酵母、カビ、粘菌など）／ 遺伝子発現制御系／ 器官・組織特異的発現／ 転写調節配列／ 転写調節蛋白質／ 転写後調節／ 翻訳調節			
8)	真核細胞における転写制御 II	石井俊輔、中西義信	谷口維紹
動物・ウイルス遺伝子の転写制御／ 転写因子 プロモーター／ エンハンサー／ サイレンサー			
9)	真核細胞における転写制御 III	長田重一、審良静雄	谷口維紹
免疫関連遺伝子の転写制御／ 情報伝達と遺伝子発現／ プロモーター構造／ プロモーター結合蛋白質／ 遺伝子の機能領域／ 蛋白—蛋白相互作用／ in vivo 及び in vitro での転写調節／ 組織特異的発現と誘導発現			
10)	原核生物遺伝子の発現制御	品川日出夫、水野 猛	中田篤男
プロモーター構造／ 調節蛋白質／ in vivo 及び in vitro での転写調節／ 情報伝達／ グローバルな調節			

11)	原核細胞の転写・翻訳装置	齋場弘二	石浜 明
	RNA ポリメラーゼ／ シグマ因子／ 転写制御因子／ リボゾーム／ tRNA／ 翻訳制御因子		
12)	RNA プロセッシング	坂本 博	志村令郎
	スプライシングの反応機構／ スプライシングによる遺伝子発現の制御／ RNA プロセッシング／ RNA エディティング／ RNA 触媒／ RNA 修飾		
13)	蛋白質のプロセッシングと局在化	伊藤維昭、河野憲二	
	蛋白質膜透過／ 蛋白質細胞内輸送／ 局在化シグナル／ 分子シャペロン／ オルガネラ／ 分泌／ 細胞膜／ エンドサイトシス		
14)	細胞の情報伝達 I、II	谷口維昭、高井義美	
	細胞増殖制御因子／ 細胞膜レセプター／ プロテインキナーゼ／ 蛋白質のリン酸化／ ホルモン／ サイトカイン／ シグナル伝達／ オータコイド／ 神経伝達物質／ 細胞内情報伝達物質		
15)	細胞周期、分裂の制御 I、II	佐方功幸、登田 隆	柳田充弘
	細胞周期関連遺伝子／ リン酸化、脱リン酸化（キナーゼ・フォスファターゼ）／ M期誘導因子（MPF）／ 染色体／ 細胞増殖／ 癌関連遺伝子		
16)	癌関連遺伝子 I、II	山本 雅、野田 亮	豊島久真男
	癌関連遺伝子（オンコジーン、プロトオンコジーン、癌抑制遺伝子、腫瘍ウイルス遺伝子、その他）の構造・機能・発現／ 発癌の分子機構／ 癌細胞の特性		
17)	発生、分化 I	黒岩 厚	鈴木義昭
	ホメオボックス遺伝子／ 発生時期特異的な遺伝子の発現調節		
18)	発生、分化 II	近藤寿人	鈴木義昭
	分化状態特異的な転写制御／ 分化決定遺伝子／ 細胞分化と癌遺伝子		
19)	発生、分化 III -細胞間相互作用-	竹市雅俊	鈴木義昭
	細胞間情報伝達／ 成長因子／ 誘導因子／ レセプター・リガンド／ 細胞認識／ 細胞接着／ 細胞膜		
20)	分子神経生物学	三品晶美、田村隆明	御子柴克彦
	神経伝達物質と受容体／ イオンチャンネル／ 神経系遺伝子とその発現制御／ ニューロン・グリアの発生と分化／ シナプス形成／ 可塑性と記憶／ 神経系の形成／ 神経系の遺伝病		
21)	分子進化	郷 通子、武藤 昱	
	分子系統樹／ 系統進化／ 遺伝暗号の進化／ 蛋白質の機能と進化／ 蛋白質の構造ユニットと進化／ DNA 結合蛋白質の進化／ 遺伝子重複／ 中立説／ エクソンシャフリング／ 大量 DNA 情報データ解析／ RNA ワールド／ オルガネラ／ 古細菌		
22)	分子生物学における研究技術の開発	岡山博人	
	相同性組換えによる遺伝子の導入と破壊／ トランスゲニック生物の作成／ 発現ベクター／ 異種生物での発現／ DNA 検出・解析法		
23)	分子医学、病態解析	中村祐輔	松原謙一
	病態関連遺伝子／ 遺伝病関連遺伝子／ 遺伝子治療／ リバース・ジェネティクス		

◆学会からのお知らせ

1. DNAの構造システムの開発推進に関する要望書を科学技術庁に日本生化学会、日本生物物理学会と共同して提出することが提案され、評議員会にはかった結果了承されたので下記の要望書を提出した。

DNAの構造解析システムの開発推進に関する要望書

平成2年3月23日

科学技術庁長官殿

日本生化学会会長	市原 明
日本分子生物学会会長	関口睦夫
日本生物物理学会会長	池上 明

拝啓、時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。平素、貴庁には我国の科学技術の発展のために御努力頂いております事に、深い謝意を表するものであります。

さて、今日のライフサイエンスとバイオテクノロジーにおきまして、DNAの構造解析の果たします役割は極めて大きく、そのために本会会員はもとより世界の研究者の多くが各研究室において手作業でDNAのシーケンスに費やす労力と費用は莫大なものがあります。一方では、DNA構造決定の作業そのものを科学研究と誤って考える風潮や、作業に時間を取られて若い研究者の独創性を伸ばす機会が失われる等の弊害も現れて参りました。生命科学の発展のために我国は国際的に貢献をすることが強く求められておりますが、単に海外のプロジェクトを分担するのではなく、我国が世界的に優れているロボット工学、システム工学等の先端技術を応用して、DNA構造解析を行うことは極めて有益と考えます。この様な計画はヒトや動植物ゲノムの構造解明やヒューマンフロンティアサイエンスプログラムなどの支援技術としても、診断技術としても、また将来、遺伝情報に関する技術摩擦を避けるためにも重要であります。

既に医療関係の生化学分析の業務は中央化した効率の高い大型機器をもつ依頼試料の分析センターで行われるようになり、従来の手作業に較べ精度の向上はもとより、費用、時間、労力を節減して、医学、医療に大きく貢献しております。しかし、DNA構造解析の業務を依頼試料分析のシステ

ムに乗せる事は、個々の研究機関の努力の範囲を越えております。

貴庁が先見の明をもちましてDNAの自動分析装置の開発に助成を続けて来られたことは国際的にも高く評価されております。この技術開発を依頼試料の総合的分析システムにまで高める御援助を賜りますようお願い致します次第でございます。以上、文意をつくし得ませんが、何卒宜しく御配慮賜りますようお願い申し上げます。

敬具

2. 日本で分子生物学領域の欧文誌をもつことの是非、ならびにもし欧文誌をもつとすればどのような形のものかを検討するため、「欧文誌に関するワーキンググループ」を評議員会の中に設置した。編集幹事の高浪 満氏が世話役となり、石浜 明、大石道夫、榊 佳之、鈴木義昭、吉川 寛氏が委員となって検討を行っている。

◆日本分子生物学会入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申し込み下さい。所定の書式をお送り致します。

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

(財) 日本学会事務センター

日本分子生物学会係

電話 (03) 817-5801

◆学術賞及び研究助成金の本学会推薦について

学術賞及び研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数及び期限は次の通りです。

1. 資料：①本申請に必要な申請資料（オリジナル＋募集要項に記載されている部数のコピー）及び論文
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部（論文は不要）
2. 期限：本申請の1か月前までに〒812 福岡市東区馬出3-1-1、九州大学医学部第一生化学、関口睦夫会長まで郵送して下さい。
3. 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。
☞資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。ご注意ください。

参考までに昨年度本会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの締切日を御案内致します。御留意の上、適宜お申し込み下さい。なお、本会への郵送は学会推薦の選考のため、この締切りの1か月前に締切りますので御注意下さい。

○第16回（平成元年度）日産学術研究助成の決定について

本学会推薦のうち下記の2件が採択された。

（一般研究）有 賀 寛 芳（北海道大学教授）

「核内癌遺伝子産物によるDNA複製と転写調節」

（奨励研究）岡 崎 孝 映（大阪大学助手）

「増殖と分化を調節するヒト遺伝子の単離と機能解析」

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 (03)263-1721 102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術 振興会内	1 件	7 月 1 日	賞状, 賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。(授賞分野は各年度毎に決定する。)
井上学術賞	勲井上科学振興財団 (03)477-2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5 件以内	9 月 20 日	1 件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者 (但し締切日現在満50歳未満)。
日産学術研究助成	勲日産科学振興財団 (03)543-5597 104 中央区銀座6-17-2	④⑤各 ~10件 ⑥ ~35件	8 月 31 日	共同研究 1 件 ④1500万円 ⑤ 300万円 個人研究 ⑥ 200万円 以下	自然科学分野の基礎的な研究に従事し, 1~3 年間に要する研究を行うとする研究者および研究グループで, その研究成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われるもの。
東レ科学技術賞	勲東レ科学振興会 (03)245-5919 103 中央区日本橋室町2- 3-16 三井 6 号館 5 階	2 件前後	10月11日	金メダル 1 件 300万円	学術上の業績顕著なもの, 学術上重要な発見をしたもの, 重要な発明により効果の大きいもの, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きいもの。
東レ科学技術研究助成		総額 1 億 円前後	10月11日	1 件1,000 万円程度	理・工学分野で独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者, またはそのグループ。
ブレインサイエンス財団研究助成 塚原伸晃記念賞	勲ブレインサイエンス振興財団 (03)273-2565 104 中央区八重洲 2 丁目 6-20	6 件 1 件	12月20日	1 件 100万円	ブレインサイエンス研究分野 (脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域) において, 独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
山田科学振興財団研究援助	勲山田科学振興財団 (06)758-1231 内線 428 544 大阪市生野区巽西1- 8-1 ロート製薬(株)内	総額 6,000万円	3 月 31 日	1 件につき 300万円~ 700万円	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し助成。 10件内外。

これは昨年度の要項をもとにまとめたものであり, 締切日や受賞対象分野が変更されることもありますので, 申請を希望の方は, 必ず詳細を関係先へ御照会下さい。

1991年度

山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

援助の趣旨及び内容

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をします。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件あたり300～700万円、総額6,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考します。
3. 援助金を給与にあててはできませんが、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の計2年度間とします。

推薦方法

- イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者
- ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに2件以内
- ハ. 推薦手続 推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。
 1. 所定の推薦書用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 4部
 2. 添付書類(研-5ページ参照)

記載上の注意

- イ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ. 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

推薦締切期日 本財団へ推薦書が到着する締切期日は1991年3月31日です。

選考方法 選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知 1991年7月迄に推薦者及び代表研究者等にあてて通知します。

援助金の贈呈 選考結果の通知後、適時贈呈します。

推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪(06)757局3311(代表)

研究の成果又は会計の報告

援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果、又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。

付

- イ. 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団、Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類いにあつてはその別刷1部、また著書の類いにあつてはその1部をご寄贈願います。
- ハ. ご提出いただきました推薦書及び添付書類は、お返しいたしません。

研究者各位へ

推薦者の項に対応する学(協)会は次記のとおりです。学(協)会により締切期日及び募集方法等が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学(協)会にお問い合わせ願います。

日本天文学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本薬学会	日本分子生物学会	日本発生物学会
日本物理学会	日本化学会	日本生化学会	日本動物学会	日本植物生理学会
応用物理学会	高分子学会	日本生理学会	日本細胞生物学会	日本植物学会
日本金属学会	日本農芸化学会	日本遺伝学会	日本生物物理学会	日本免疫学会

山田科学振興財団派遣援助申込要領

援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する研究者を国外に派遣し、学識を交換して學術の国際交流を促し、又研究を共にして相互に研究の学際的あるいは国際的進展を図る等のために、次のイ、及びロ、の援助を行う。

- イ、高度の研究業績を持つ研究者を、講演、討論等を主目的として、短期間（通例3カ月間以内）派遣するための渡航費の援助
- ロ、高度の研究活動を実施しつつある新進研究者若干名を、協同研究への直接参加を主目的として、長期間（通例6カ月～1カ年間）派遣するための渡航費、滞在中の国内旅費、滞在費等の援助

援助金額

本年度の総額 来日援助と併せて6,500万円の予定

申込手続

所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し、次のイ、ロ、の各文書あるいはそれらの写しを添え、おのおの3部ずつご送付願います。

- イ 短期間派遣にあっては、1. 集会の内容を紹介する文書 例え、集会のサーキュラー及びプログラム等 2. 講演・発表等の要旨 3. 派遣先と交わした申込者又はこれに代る人からの往復書信等の連絡書信 4. 研究指導者又は所属機関長の推薦書 5. 最近3カ年間の研究報告のリスト
- ロ、長期間派遣にあっては、1. 直接指導者又は所属機関長による本申込及び本研究に対する評価又は推薦の文書 2. 派遣中の具体的な研究計画書及びそれを本人が英、独あるいは仏訳したもの 3. 受入先の発行した招へい状及び受入受諾を確証する約定書 4. 派遣先と交わした申込者又はこれに代る人からの往復書信等の連絡書信 5. 研究報告のリスト

記載上の注意

- イ、紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ、外国人名は、フルネームを活字体で書き、読みかたをフリガナで示して下さい。邦人名にはフリガナを付けて下さい。

申込期限

- イ、短期間派遣
出発予定日より4カ月以前の月の15日
(例：10月に出発予定のときは6月15日が申込期限に当たる)
- ロ、長期間派遣
1990年11月30日(1991年4月1日～1992年3月31日に出発予定の方)

選考方法

選考委員によって選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

申込者にあてて通知します。

援助金の贈呈

申込者にあてて適時贈呈します。

申込書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪(06)757局 3311(代表)

付

- イ、援助金の使途を変更するときには、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ、申込者には、援助による成果について報告書の提出を求めます。
- ハ、成果について刊行する場合には、本財団の援助による旨書き添え、その別刷1部をお分け下さい。
- ニ、ご提出いただきました申込書は、返却いたしません。

山田科学振興財団短期間来日援助申込要領

援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事し、高度の研究業績を持つ在外の研究者が、学識を交換して學術の国際交流を促し、又研究を共にして、相互に研究の学際的あるいは国際的進展を図る等を目的として、短期間(通例3カ月以内)来日するための援助を行う。

援助金

- イ. 本年度の総額 派遣援助と併せて6,500万円の予定
- ロ. 渡航費、滞在中の国内旅費、滞在費等

申込手続

- イ. 所定の用紙又はその写しに必要事項を記入する。
- ロ. 招へい状、推せん書、連絡の往復書信、申込者及び来日者の業績一覧表、その他申込者において補足説明を要すると判断される場合は、その説明書を添付する。
- ハ. イ、ロ、共おのおの3部ずつご送付願います。

記載上の注意

- イ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ. 外国人名は、フルネームを活字体で書き、読みかたをフリガナで示して下さい。邦人名にはフリガナを付けて下さい。

申込期限

1990年11月30日(1991年4月1日～1992年3月31日に来日予定の方)

選考方法

選考委員によって選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

申込者にあてて通知します。

援助金の贈呈

申込者にあてて適時贈呈します。

申込書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪(06)757局3311(代表)

付

- イ. 援助金の用途を変更するときには、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 申込者及び来日者には、援助による成果について報告書の提出を求めます。
- ハ. 成果について刊行する場合には、本財団の援助による旨書き添え、その別刷1部をお分け下さい。
- ニ. ご提出いただきました申込書は、返却いたしません。

◆日産科学振興財団より

第17回（平成2年度）日産学術研究助成の募集について

記

研究助成課題

1. 人間と機器との係わりに関する研究（重点助成課題）
2. 資源・エネルギーに関する研究
3. 自然環境及び都市環境に関する研究
4. 新しい機能材料の研究
5. 生命現象に関する研究

研究助成要約

研究の種別	一般研究助成		奨励研究助成
	(A)	(B)	
研究の性格	研究が長期にわたる学際的グループ研究 (共同研究に限る)	独創的な短期間の研究または本格的な研究への調査・準備的研究 (共同研究に限る)	若手研究者による萌芽的・独創的研究 (個人研究)
1件当りの助成金額	1,500万円限度	300万円限度	200万円限度
助成金の総額 (採択件数)	約13,500万円 (10件程度) 平成3年度 (3/4～4/3)	約3,000万円 (10件程度) 平成3年度に交付	約5,500万円 (35件程度) 同左
助成金の支払期間	助成第1年度とする。 助成期間2～3年	助成期間1年	助成期間1年

締切日

学・協会から当財団への推薦締切日は、平成2年8月31日(金)。

A、Bについての推薦枠は合わせて3件以内。

◆千里ライフサイエンス振興財団設立記念講演会

「21世紀のライフサイエンスに向けて」

—(財)千里ライフサイエンス振興財団設立記念講演会—

と き：平成2年9月20日(木)～21日(金)

と ころ：千里阪急ホテル（地下鉄御道筋線千里中央駅）

（大阪府豊中市新千里東町2-1-D1 Tel (06) 872-2211）

主 催：(財)千里ライフサイエンス振興財団

後 援：通商産業省、大阪府、日本分子生物学会・他

開催趣旨：本財団の設立を記念し、上記テーマで各分野の本邦を代表する先生方にご講演頂き、自己の専門領域にとどまらず広く他領域の最新知識にも触れて、総合して自己の学術的知識を高める。同時に講師を囲む懇親パーティーを通じて参加者同士が自由な雰囲気での交流を深め、未来を拓く人的ネットワーク作りを進める場と機会を提供する。よって研究・開発および企業化の一層の活性化と促進を図る。

プログラム

〈第1日〉 午前の部

1. 基調講演 「ライフサイエンス振興への工夫」
(大阪大学細胞工学センター教授) 岡田 善雄
2. 招待講演 「高齢化社会におけるライフサイエンス」
(三菱化成生命科学研究所所長) 今掘 和友

午後の部

3. 招待講演 「21世紀への挑戦
—バイオインダストリー施策の新展開—」
(通産省・生物化学産業課長) 増田 優
4. 招待講演 「生体における情報伝達の仕組み」
(神戸大学医学部教授) 西塚 泰美
5. 招待講演 「DNA研究の進展とヒトゲノム解析計画」
(大阪大学細胞工学センター長・教授) 松原 謙一

懇親パーティ

〈第2日〉 午前の部

6. 招待講演 「バイオ産業の夢と現実」

(日経バイオテク編集長) 宮田 満

7. 招待講演 「科学と人間」

(東京女子大学教授) 森本 哲郎

8. 招待講演 「バイオの時代と伝統的生物学の進み」

(岡崎国立共同研究機構機構長) 岡田 節人

午後の部

見学会 (希望者30名・申込順・無料)

1. ㈱蛋白工学研究所

2. 財大阪バイオサイエンス研究所

参加費：(要旨集、第1日昼食、懇親パーティー費含む)

主催・後援団体会員：会社2万円 大学・官公庁1万円 非会員：会社
3万円 大学・官公庁1.5万円

参加申込締切：8月31日(金)、定員(400名)なり次第

参加申込方法：①氏名②勤務先、職名③加入学会(団体)名④連絡先(〒、Telも)

⑤葉書(またはFAXで)に振込月日を明記の上、下記宛お申し込み下さい。参加費は銀行振込(三和銀行・千里中央支店・普通預金No.3634730・記念講演会事務局)でお支払下さい。ご送金受付後、参加証(当日持参)を送付します。

申込先：〒565 豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央ビル 9階 財千里
ライフサイエンス振興財団

Tel (06) 871-5535 FAX (06) 871-5530

「地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)の実施について(勧告)」を採択

平成2年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月18日から20日まで第109回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、その総会で採択された勧告を中心に、同総会の議事内容等についてお知らせします。

日本学術会議第109回総会報告

日本学術会議第109回総会(第14期・第5回)は、4月18~20日の3日間開催された。

総会第1日目の午前中には、会長からの経過報告、各部委員会報告に続き、勧告、対外報告の2案件の提案がなされた。これらの案件については、同日午後の各部会での審議を経た上で、第2日目の午前中に採択された。なお、総会前日の17日の午前中には、連合部会が開催され、これらの案件の予備的な説明、質疑が行われた。また、第2日目の午後には、自由討議が、第3日目の午前中には各常置委員会が、午後には各特別委員会がそれぞれ開催された。なお、第2日目の総会に先立ち、同日表敬訪問のために訪れた1990年(第6回)日本国際賞受賞者4名の紹介がなされ、うち2名の方々から挨拶が行われた。

今回総会では、次の勧告、対外報告が採択された。

①地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)の実施について(勧告)(この勧告の詳細は、別掲参照)

このIGBPについては、以前から会長召集の検討会議や関係する部会、研究連絡委員会等で検討が続けられてきたが、この度、これらの検討結果を踏まえて、人間活動と地球環境に関する特別委員会のIGBP分科会が中心となって今回の勧告案を取りまとめたものである。

この勧告は、同日午後直ちに内閣総理大臣に提出され、関係省庁に送付された。

②人間活動と地球環境に関する特別委員会報告—人間活動と地球環境について(この対外報告の詳細は、別掲参照)

これは、人間活動と地球環境に関する特別委員会が、昭和63年10月の発足以来行ってきた審議の結果を中間報告として取りまとめたものについて、外部に発表することを承認したものである。この件に関する審議の際には、人間活動という言葉の定義、国際関係や各国の科学技術政策との関連、環境教育の位置付け等々について、活発な質疑応答があり、また、文案の修正を求める多くの意見が出される等、熱心な討議が行われた。

また、総会第2日目の午前には、南アフリカ共和国科学者の学術に係る我が国への入国手続きをめぐる従来からの問題について討議が行われ、「科学者の自由交流」の考え方に賛同し、本問題の早急かつ実質的な解決を望む多数の意見が述べられた。

なお、第2日目午後には、「学術の国際化への対応」というテーマで、活発な自由討議が行われた(この自由討議の詳細は、別掲参照)。

(中略)

総会中の自由討議—学術の国際化への対応

本会議総会中の行事の一環である自由討議が、総会2日目の4月19日の午後1時から3時間にわたり開催された。今回の課題は、「学術の国際化への対応」であった。

自由討議は、大石泰彦副会長の司会のもと、はじめに話題提供として、①川田侃第2部会員から「学術の国際化への対応—政治学の場合」について、②高柳和夫第4部会員から「学術における国際対応—理学の場合」について、③松本順一郎第5部会員から「日本学術会議と国際学術協力」について、それぞれ意見の発表がなされた。

続いて、会員間で多岐多様にわたり活発な討議が行われたが、その際述べられた意見の主なものを項目として列挙すると、「日本全体の国際学術交流・協力事業に占める日本学術会議の位置付け、役割」、「特に発展途上国からの研究者、留学生の受入れ問題」、「ユネスコ関係の諸活動・事業への対応の在り方」、「日本学術会議が加入している各国国際学術団体への対応の個別的な現状と問題点」、「新しい国際協力事業への日本学術会議の対応の在り方」、「日本学術会議の国際対応組織の整備・強化」等であった。

(中略)

生物物理学研究連絡委員会報告—生物物理学の新しい研究体制について(要旨)

生物科学の急速な進展の中で生物物理学は生物機能のメカニズムを物理学的に解明し、生物科学全体の基礎を形づくる学問として、多くの貢献をしてきた。今後生命現象の基本的理解をめざすのみならず、バイオテクノロジーの基盤となるべく、生物物理学の役割はますます大きい。

このような状況の下で、生物物理学の一層の発展をはかるには、以下のような新しい研究体制をつくることが望ましい。

現段階で特に集中的総合的に研究を推進すべき分野として、(A)分子機能解析 (B)生物情報解析 (C)高次情報解析の三つをとり上げる。それぞれの分野に適合した場所に研究室群(研究センター)をおき、それらが相互に連携し、一つの研究組織を作る。さらにこの組織が物理的方法を軸として新しい大型の研究設備のシステムを備える。そして将来この体制が基礎生物科学の研究体制の重要な一環となることをめざす。(以下略)